

第2回江東区消防団運営委員会議事録

開催日時	令和6年9月24日（火） 14時00分から15時30分まで
開催場所	江東区防災センター4階 災害対策本部室
諮問事項	「変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」
出席者	委員長 大久保 朋果（江東区長） 委員 山本 香代子（区議会議員）、川北 直人（区議会議員）、井川 りょうたろう（区議会議員）、矢次 浩二（区議会議員）、西部 ただし（区議会議員）、山下 勝義（学識経験者）、吉川 保彦（学識経験者）、綾部 吉行（学識経験者）、槇野 稔（深川消防署長）、水越 文広（城東消防署長）、赤澤 光幸（深川消防団長）、青木 清美（城東消防団長） （敬称略）
欠席者	委員 古賀 じょうじ（区議会議員）、馬締 和久（学識経験者） （敬称略）
傍聴者	2名
配布資料	1 次第 2 江東区消防団運営委員名簿（資料1） 3 特別区消防団運営委員会への諮問事項について（資料2） 4 江東区消防団運営委員会答申骨子（案）（資料3） 5 江東区消防団運営委員会答申（案）（資料4） 6 特別区消防団運営委員会への諮問に関するアンケート結果（資料5） 7 諮問に対する審議予定（資料6）
審議次第	1 開会 2 委員紹介 3 区長挨拶 4 議長挨拶 5 報告 6 議題 7 閉会
審議内容	
事務局	開会の挨拶及び委員の紹介
委員長	委員長挨拶
委員	区議会議員挨拶
事務局	城東消防署警防課長より、江東区消防団運営委員会答申（案）について、「配布資料3」及び「配布資料4」を用いながら説明を行った。
委員	前回から消防団運営委員会に所属させていただいております。私は、地元東砂で3年前から城東消防団第6分団に所属しております。日頃から消防団の皆様と活動

委員	を通じて感じていることがあり、今回の資料の中で、大きく二つについてお尋ねしたいと思います。 まずは、社会情勢が今変化しているということがありましたが、特に人口の減少、高齢化、働き方など、人の生活、年齢などにフォーカスされているなどと思います。やはり課題となってくると思うのは、まず一点目、消防団の活動の負担軽減を申し上げたいと思います。具体的に言いますと、前回も意見をしましたが、これだけ暑さが厳しい時期における操法大会、昨年の5月については城東の操法大会だけでも5名が熱中症になりました。先日の9月に開催した消防団点検では、私たち消防団の中から終わった直後に発熱した団員がおり、消防団員に対する負担が重いなどと思いました。今回消防団点検のときにクーリングシェルターのようなテントの中に椅子と大きな扇風機を設けていただき大変助かっているところではあります。開催時期の見直しも、今後、検討してみてもいいのでしょうか。皆さん仕事勤めの方や、自営業を営んでいる方、メインのお仕事をしながら経済活動があつて地元の消防団の活動ということで、やはり時間を確保することがなかなか難しいです。名前だけ所属している団員、土日だけ出勤、夜勤があるとか、消防団点検の時も「私ちょっとこれから仕事なので途中で早退させていただきます」と最後まで参加できていない団員もいました。こういうことが変化する社会情勢という中で起きております。消防団への負担軽減ということで具体的に申し上げにくいですが、6分団の意見として言っているよと言われまして、毎年の操法大会は遠慮していただきたい、例えば3、4年に1回にしてほしいと、是非言っていただきたいという意見がありました。そういう考えもあるのかなというふうに思っております。 二点目です、3年前、私が何で消防団に入ったかといいますと、2019年の台風19号がありました。荒川が氾濫するかどうかというところで、私は一人候補者として地元の活動として、土手沿いの家を点検して回っておりました。その時に消防団の皆さんが「かんかんかんかん」とサイレンを鳴らして、車両で見回りをしているのが印象的で、そういう活動ができれば良いなと思い入りました。皆さんモチベーションがあります。そういった魅力とかモチベーションを引き出して、どんどん人材確保をしていくことが必要です。中高年の男性が多い、消防団全体でそういう傾向ですか。女性が少ない、学生が少ない、外国人の方は入れるのですか。新たな人材確保というのが今後求められているのではないのでしょうか。女性がいることによって、女性目線に立った消防活動ができます。例えば、ニュースで女性が倒れていて服を脱がせてAEDを活用し、命は助かったけれど、男性が処置したため、後で服を脱がせたことを訴えられてしまった。今度はそのニュースを知っているので、別の事例では男性が、女性を助けようとしても、なかなか手を出しにくくて、逆に重症化してしまい助けられなかった。やはり女性がいることによって活動幅が広がり、スムーズな活動につながると思います。資料の中でも英語など語学力を高めたいという方がいらっしゃいます。今本当に海外の人が増えています。中国、韓国、インドの方など外国人の力も新たな人材として受け入れていくべきではないかなと思っております。魅力向上といえば、江戸川区の小松川公園でお祭りがありまし
----	---

	た。その時に消防車があるわけです。そうすると、僕も子供がいますが、子どもたちが、消防車と写真を撮ったり、水消火器を実際に使うなど、日常的に触れる機会がありますので、そういった魅力を取り入れていただけたら、新たな人材確保になるのではないかと考えております。以上二点、団の負担軽減と新たな人材確保ということをお聞きしたいと思います。
事務局	それでは今の二点の質問についてお答えします。操法大会の訓練は、これはアンケートを取った結果、必要だという結果が出ています。ですから、今後どのように変わっていくかわかりませんが、今の段階では毎年実施する。ただ、その実施要領については検討する必要もあるとは思いますが、実施時期についても検討に値すると思っております。団点検についてですが、実施時期について、少し検討する余地もあると思っております。外国人については、今は外国人の入団は受付けておりません。それについては、今すぐ入れるというわけにはいきません。あとは、女性団員、若い団員の募集についてですが、今の段階で女性団員も増えていきますし、若い団員についても徐々にではありますが、入っていただいているような状況にもあります。動向を注視していく必要があると思っております。各署において団員の募集については、引き続きあらゆる機会を捉えてやっていただいております、実際に城東消防署でもイベントがあるたびに、パンフレットなり、募集活動は団員の方にもお願いして、活動している状況もあります。状況については注視していく必要があると思っております。以上になります。
委員	はい、ありがとうございます。団員の人も、操法大会をなくせとか言っておりません。負担軽減ということで、数年に一度の開催にして欲しいと言っております。それ自体は意義があるものだと団員として捉えているところであります。
委員	確かに、操法大会等については、団員の負担は軽いものではありません。ただし、団員の中で、また分団の中で是非やって欲しいという意見もありますし、我々消防団員というのは消防署員と同じように訓練をしないと、実際の現場では活動が思うようにできないという特性があります。それを踏まえた上でいかに団員の負担を軽減するか。城東に関しては操法大会について、優勝を狙う分団も確かにあります。それはそれでいいと思います。訓練に参加して、技能を習得するという、そういう点に重きを置いて参加する。成績じゃなくて、そういうことに重点をおくような形で幹部会議等ではお話をしております。また、災害というのは、夏の暑い日でもまた夜中でも冬の寒い日でも火災等が発生します。災害に対応するためにも、やはり日頃から体力練成にも努めなければなりません。また、自分自身の体調の善し悪しを判断していただいて、災害出場する。消防署員の方とは違いますので、自分の体調管理を認識した上で出てくるという、そういう形で今指導等しております。その点についてはご理解いただきたいと思います。ですから、新入団員や、女性団員が少ないというお話でしたが、決して少ないことはないです。各分団見ていただければ分かりますが、城東第2分団は半数以上が女性です。また操法大会でも一番員から四番員まで女性団員が入っています。そういう姿も見られます。一概に6分団の中の意見だけではなく、やはり全体的に見ていただいてどういう活動をされて

	いるのか、どういう構成になっているのかも認識しながら今後も城東消防団の活動を図っていかねばならないというふうには考えております。
委員	いくつか伺わせていただきます。答申案 2 ページ目 (2) というところで無線機のことについてふれていると思います。MCA 無線機と 400MHz 無線機が今消防団で使用されていると思いますが、災害時を想定した時に、この 2 種類の無線機というのは限りなく使用できると位置づけられているのか、それとも他の代替手段も用意しておかないと、通信が途切れる可能性も想定されているのか、その辺の見解を教えてくださいたいというのが一点。次に今回この答申案の中には 400MHz と 260MHz を統合した無線機の採用について言及されていますが、機種を変更することを想定されているのか、これを取り入れた場合は 1 種類の無線機での運用ということになるのかを伺いたいというのが 2 点目。 3 点目は区の防災課職員も来られているので、東京都の方で東京都強靱化プロジェクトを実行していく中で、東京都と自治体との災害時の通信網については、二重の備え、三重の備えってということで、例えばスターリンクの配備とかですね。東京都内の自治体の方に配備をする動きがあります。消防庁としては東京都強靱化の一連の中で、1 番目の質問とリンクしてしまうかもしれないですが、現行に変わるものを配備する必要性は感じられていらっしゃるのか、例えば、今回の消防団の方々にかなり丁寧にアンケート調査を取っていただいた中で、スマホを持ち歩くのは日常的ですし、一方で、従来型の無線機について非常にかさむので、持ちづらいというご意見もあります。その辺を今後軽量化、技術の革新によって代替できるものがあるとなれば、そちらに切り替えていくとか、その辺の方向性についてお伺いしたいです。以上 3 点です。
事務局	只今の質問にお答えいたします。まず、MCA 無線機と 400MHz 無線機ですが、MCA 無線機は消防団同士が交信する無線機で、400MHz 無線機は消防団と消防署隊が交信する無線機で 2 種類がありますが、何かあったら代替があるのかということについてはそれはありません。この 2 種類の無線機で災害時に運用してるという形になります。260MHz と 400MHz の統合した無線機というものですが、これについてはもしあれば、2 つ持つよりも 1 つの方が活動的には良い、1 つの無線機で 260 と 400 の両方交信できるのであれば切り替えて使うことができますので、そういう形の無線機があれば、統合した新たな無線機の導入というところも良いのかなと考えております。スマホ、携帯電話ですけれども、地震など大災害になると、携帯が繋がらないという状況になると思います。ですから、そういう機能を持たせたスマホなどがあっても、災害時に使えない不安があるということで、無線機に関しては、今運用中の無線機にプラス新しいそれになるような無線機というところで今の提言はしているところです。

委員	ありがとうございます。260 と 400 のそれぞれのMHz を活用する際には、統合された機械の導入も、念頭に置かれるというところは理解できました。アプリと言いますか、携帯電話と言いますか、衛星通信のことを、自治体間の連絡体制とかにもこう活用する、ある意味補助的なものも含めて考えていくことが必要だと思います。一つのスターリンクで 60 台とか 70 台携帯が繋がるとかですね。東京都として全体として導入していこうとする時に消防庁として使うお考えっていうのがあるのかなっていうところはいかがかなっていう考えで質問させていただいていますが、今のところ、そこにはまだお考えには至ってないってことで、よろしかったですか。
事務局	衛星電話については東京消防庁も導入してしまして、災害現場でスマホなり携帯が使えないところでも通信できます。実際に東日本大震災にも持っていき、こちらと通信したりはしておりました。ですから導入はしていますが、数的なところでいうと、十分な数としては入れてないという形になります。 みんながみんな使える各隊で使えるというにはなっておりません。
委員	防災課長もいらっしゃるのですけれど、東京都と他 23 区の自治体の中で、衛星のスターリンクの使い方を今どういうふうに想定して配備をしているかっていうところ教えて下さい。
事務局	スターリンクにつきましては今お話いただいた通り、今年度東京都が都内各自治体に配りました。江東区でも 1 台入っています。今年度は訓練をやってみようということで、実際に操作訓練をしているところです。 ただ、まず 1 台だということで、少なくとも区と東京都、消防とかですね。災害対策本部室で使うような想定ということが現状としての認識をしています。もし普及が進めば、今後の展開ってことは、有り得るかなとは思っております。
委員	私からも確認をさせて頂ければと思います。まとめで、組織の活性化だとか活動環境の改善、この中であと地域住民の認知度向上、これを最終点とし、新入団者の促進を図っていくというふうに記載がされているところであります。その中で 5 ページで地域との関わり合いというところでありますけれども、江東区への転入者に対する消防団の認知度向上を図っていくという記載がございます。再度提出される内容ではありますけれども、これまでにどんなことを実施されたのか、実施の状況を確認させていただきたいというところ。もう一つが、5 ページの最下段に児童生徒に対する理解促進という部分で、様々な活動をされていると認識をしております。その中で総合防災教育、実施状況というのは、内容を含めてどんなことをされているのか。消防少年団活動の理解を通して、入団の促進を図っていくこととなりますが、例えば地域の中学校、そういった部分で学校の様々な防災活動があるのではないかと、直接的なアピールみたいなことを活動として計画あるいは検討されたのかどうか、この二点に関して確認させてください。
事務局	1 点目の江東区外から転入してきた方に対する、入団促進ということですが、まずイベントとして春秋の火災予防運動、地域の防災訓練、消防団合同点検の場など、そういった消防署が主催している各イベント会場において、消防団の入団促進とい

	う形で、パンフレットなり、その消防団員の方に実際に消防団員の募集活動をしています。実際に先日も亀戸の商業施設でやらせていただいたイベントについても、数多くの方が来ておりましたので、広報活動としてはやっております。ですから、あらゆる機会を捉えて消防団の入団促進については実施しているというところがあります。小中高校生に対する総合防災教育についてですけども、学校に直接消防署の職員も指導に行きますし、各防災訓練、避難訓練や、起震車を使った訓練とか初期消火訓練とか学校の方では今積極的にやっております。それに対して、消防署は指導にいつているわけですけども、そこに消防団の方もお願いしております。何名かの消防団員の方には実際にその学校に出向いてもらって、実際に消防団の服を着てもらって、そういった形で子どもたちにも指導して、消防団としてのアピールをしています。毎年、時期はありますが、大体の小中学校、高校でも実施して、その時、団員の募集についてもアピールをしている形になります。
委員長	ほかにご意見、ご質問等ございますでしょうか。
委員	今の質問の補足ですが、最近増えているのは児童館からの依頼が消防団にありました。児童館を使うような小さな子どもたちを対象に防災講演をして欲しいという依頼がありまして、今年もう二回、コロナ明けから、活発にもたらされております。その中でやはり子どもたちからの質問。消防団に入ってよかった点がありますか等、質問も出てきたりその中でやはり消防団活動っていうものを理解していただく、そういうような、ことも最近は頻繁に行うようになっております。
委員長	ほかにご意見、ご質問等ございますでしょうか。
委員	先ほどの質問で、操法大会について深川消防団の意見としても、以前分団長会議で各分団長に一人一人聞いています。その中で、確かに消防団活動が負担で、操法大会が特に負担になるので2年に1回でどうですかという少数意見が出ました。実際問題、やっぱり大変です。それは分かります。 ただ、消防団として先ほど青木団長もおっしゃったとおり、現場に出場したときにはどうしても訓練をやっていないければ、いざという時にになにもできません。それを兼ねての操法訓練なので、少数意見としてはそういう意見も出ましたが、結局消防団全体としてやるということになりました。各分団によって操法大会に向けての温度差があります。いろいろ分団があります、それは各分団が決めることなので全然いいですが、やっぱり消防団として、私も長年操法に携わってきた身であります。やはり操法大会の操法は基本中の基本なのでこれをやっていただくのは判断がわかれます。これから先、操法自体どうなるかわかりません。例えば今各分団に可搬ポンプ積載車配置になっています。今深川では10個分団中 まだ3個分団は積載車がありません。各分団に全部配置になったら、可搬ポンプ積載車を活用した操法大会とかいろいろ操法大会に関して将来的に内容を変えていくことを私たちは期待しています。今の深川の3個分団についてはまだ、事情がありましてまだ配置になっていません。これは是非とも将来に向けて各分団に配置されるようによろしくお願いいたします。城東は、全分団に配置になっていますよね。戻ってしまつてすみません。

委員長	ほかにご意見ご質問等ございますでしょうか。よろしいですかね。住民の命を守る消防団のあり方として、負担軽減を図りつつ一定の技術をどう確保していくかという観点で皆様からご意見をいただいたかと思います。次の世代につながる消防団の在り方について、本日ご審議いただいた内容を踏まえて、次回第3回消防団運営委員会におきまして、答申の事務局案をご審議いただく形になりますので、よろしくお願いいたします。事務局より事務連絡をお願いします。
事務局	第3回の委員会につきましては年明けの令和7年1月下旬、2月上旬頃でまたこの会場で開催したいと思います。日程が決まり次第、改めてご案内いたしますのでよろしくお願いいたします。
委員長	以上をもちまして第二回消防団運営委員会を終了いたします。本日はありがとうございました。